

| | |
|----------|--|
| 氏名 | 畝 川 芳 彦 |
| 学位(専攻分野) | 博 士(医 学) |
| 学位授与番号 | 博 乙 第 2665 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 5 年12月31日 |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当) |
| 学位論文題目 | Neural Cell Adhesion Molecule Expression and Clinical Features in Small Cell Lung Cancer : A Semi-Quantitative Immunohistochemical Approach Using an Immunogold-Silver Staining Method (肺小細胞癌における神経細胞接着因子の発現とその臨床像の関連 : 金コロイドを用いた免疫組織学的方法による組織の神経細胞接着因子の半定量的検出) |
| 論文審査委員 | 教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 赤木 忠厚 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

神経細胞接着因子 (NCAM) は細胞相互の接着を媒介し、腫瘍においてはその分化、浸潤性発育、転移などに関与すると推察されている。当研究では、肺小細胞癌腫瘍組織における NCAM 発現量を免疫組織学的に半定量し、その発現量と臨床像との関連を検討した。【対象と方法】肺小細胞癌20例を対象として、アセトン固定パラフィン包埋された腫瘍組織を薄切し、1次抗体としてNCC-LU-243、2次抗体として抗マウス金コロイド標識抗体を用い、極分化蛍光顕微鏡下に腫瘍細胞に付着した金粒子数を算定しNCAM発現量とした。【結果】NCAM発現量は limited disease例に比べ extensive disease例で高値であり、遠隔転移を有する症例ではさらに高値を示していた。NCAM発現量が40以上の高NCAM発現例は40未満の低NCAM発現例に比べ化学療法の奏効率が低く、奏効期間 ($p=0.011$)、生存期間 ($p=0.003$) は有意に短縮していた。【考察】肺小細胞癌におけるNCAM発現量はその予後に密接に関連していると考えられた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は肺小細胞癌腫瘍組織における神経細胞接着因子（NCAM）発現量を免疫組織学的に半定量し、臨床像との関連を検討したものである。その結果肺小細胞癌におけるNCAM発現量はその予後に密接に関連していることを明らかにした。これは有用な新知見であり、よって本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。